

# 平成 28 年度 自己評価書及び学校関係者評価書

平成 29 年 2 月 28 日  
札幌市立陵陽中学校

## 1 本年度の重点目標

「安全・安心で居場所がある学校」「自己肯定感・自己有用感が高まる学校」「保護者、地域から信頼される学校」

## 2 本年度の経営方針

- ・学ぶ力の育成～分かる・できる・楽しい授業に向けた取組の充実～
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな身体の育成
- ・保護者、地域から信頼される学校

## 3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	教育目標や経営方針が生徒・保護者に共通理解され、実現に向けて取り組まれている。	B	学校の課題や方針等を各種たよりやホームページ、保護者集会等で周知するとともに、生徒・保護者との協働により課題解決を図る取組を行う。	A	A
	知・徳・体のバランスのとれた生きる力を身に付ける教育課程が編成され、計画的に実践されている。	A	道德教育の充実、及び「学ぶ力」育成プログラム、「健やかな身体」育成プログラムを確実に実行する。	A	A
	校内研修が適切に進められ、教員の資質向上を目指している。	B	本校の課題解決に必要な研修テーマを設定するとともに、研修の成果を全教職員が共有し、実行する。	A	A
	「開かれた学校」により、保護者や地域に信頼される学校づくりを行っている。	A	学校ホームページや学校だより等による情報発信を充実し、学校の様子が保護者に伝わるようにする。	A	A
学校関係者評価者による意見	本校の課題解決に向けた校内研修の充実に向け、来年度、学びに向かう集団づくりなど「学業指導」について校内研修を行うとのことで、改善の方向として適切と考える。ぜひ校内研修を充実したものにしてください、生徒の学ぶ力の向上を図っていただきたい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	分かる・できる・楽しい授業を目指し、授業改善に努めている。	B	基礎・基本の確実な定着や思考力・判断力・表現力等を育むため、校内研修会を充実し、教職員の資質向上を図るとともに、全教職員が共通に行う取組を設定し実行する。	A	A
	生徒の意欲を高め、学習状況を的確にとらえる評価に努めている。	A	保護者と学校が共通認識のもとで生徒の学習意欲等を育めるよう、評価方法を保護者に説明する機会を設ける。	A	A
	家庭学習の習慣化を目指した取組がなされている。	B	学習の記録シートの改善を図るとともに、家庭学習支援の在り方について研修を深める。	A	A
学校関係者評価者による意見	「繰り返し学習」ができていない生徒は基礎・基本が定着していないことが多いので、学校での学習のほか、家庭学習の習慣化も重要である。改善策として研修の充実を図ることは評価できるが、保護者と協力しながら取り組んでほしい。				
生徒指導	命の大切さを理解させ、いじめなどの生徒指導上の諸課題について、実態に即して適切に指導している。	A	命を大切にすることを育む取組（道徳教育、講演会等）を継続するとともに、陵陽文化の一つである挨拶の取組向上に向け、生徒会活動など生徒の自主的な活動の充実を図る。	A	A
	疑問や不安などについて、生徒が信頼して相談できるよう学校は対応している。	A	日程調整により相談時間を確保するとともに、相談の内容や生徒の変容などについて保護者と情報共有するなど、教育相談を一層効果的に進める。	A	A
	生徒指導を効果的に進めるべく、校内における組織的対応や、家庭や地域との連携に努めている。	B	生徒指導委員会の活性化を図るとともに、生徒指導上の課題や改善策等について保護者と共有し、協力して進める。	A	A
学校関係者評価者による意見	陵陽文化の一つである「挨拶」ができない生徒が年々増えてきていると感じる。以前は学校だけでなく地域の大人にも挨拶していた。生徒会活動を中心とした自主的な活動は改善策として適切であるので、生徒の活動をしっかりと支援していくべき。				